



情報誌

FAR

52 号

事務局：公益社団法人 日本放射線技術学会事務局内

〒600-8107 京都市下京区五条通新町東入東鋸屋町 167 ビューフォート五条烏丸 3F

TEL:075-354-8989. FAX:075-352-2556/http://www.jsrt.or.jp. Email:office@jsrt.or.jp

《ごあいさつ》

会員数増加の方策は？

副会長 山 哲男



会員の皆様方は、この夏をご健勝にお過ごしのことと拝察致します。

本会は発足以来、会員相互の親睦を図ることを目的として JSRT の春・秋学術大会時に併せて懇親活動をしています。今年の秋季学術大会(第 46 回秋季学術大会)は 2018 年 10 月 4 日～6 日の 3 日間仙台市で開催されることを期に、今回は 10 月 6 日(土)・7 日(日)の予定で「2018 日本三景松島と震災復興視察の旅」と銘打って一泊二日の予定で懇親旅行が計画されています。仙台での懇親旅行は、第 38 回秋季学術大会が行われた 2010 年 10 月 16 日・17 日の両日に今は亡き佐々木正寿先生が代表幹事として「2010 杜の都への旅」として行われて以来

8 年振りに仙台での開催となります。この 8 年間で振り返ってみますと、2011 年 3 月 11 日に発生し未曾有の被害をもたらした「東日本大震災」がありました。今回の懇親旅行は、代表幹事の梁川 功先生発案で観光旅行だけでなく震災復興視察も盛り込まれています。是非とも多くの皆様方のご参加を願います。(旅行の詳細内容は本誌第 51 号 3～4 頁に掲載されています。)

FAR 会は 2001 年 4 月に設立され、発足当初の会員数は 89 名でスタートし、会員数はその後徐々に増加して、2003 年末には 107 名となりましたが、その後 100 名を切る状態が続き、現在は 92 名となり 90 名を割り込む状態です。今年 4 月以後の新入会者は皆無で、現在のわが国の人口動態を反映するかのようには会員の高齢化も著しく、60 代から 80 代の割合が 89%と高齢化状態にあります(下図 左)。更に、都道府県別会員の居住地も 57.6%の会員が埼玉県、東京都、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県の 6 都府県在住と偏在しています(下図 右)。会員の高齢化と居住地の偏在並びに新入会員勧誘は毎回の世話人会議で話題になり議論を行っていますが、妙案が無く苦慮しています。会員の皆様方には、身近の方々、特に 50 代・60 代の方々への本会ご入会の働きかけをお願い申し上げます。

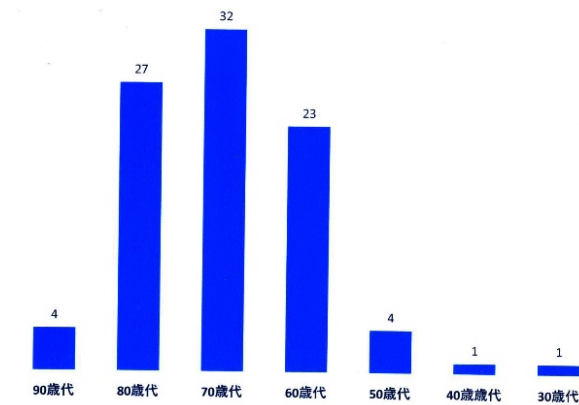
「数の力」を得て楽しい会の発展を期待しております。

(会員数は 2018 年 7 月末日現在のデータを基に作成した)

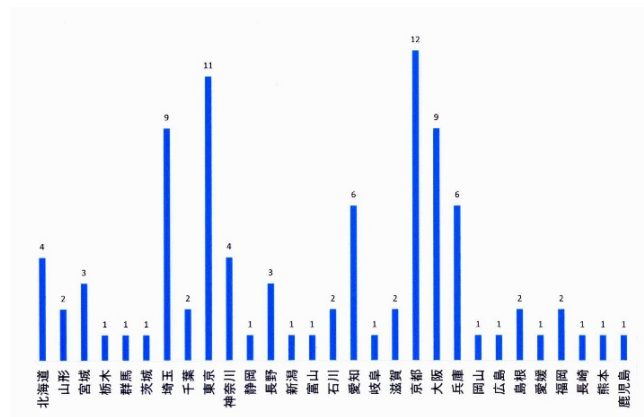
内 容

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. ごあいさつ | 副会長 山 哲男 |
| 2. 秋季大会へのお誘い | 大会長 千田浩一 |
| 3. 会員動向 | |
| 4. JSRT 情報 | |
| 5. 寄稿《古墳巡り回想録》-その 1- | 川越市 森 克彦 |
| 6. 原稿・作品募集 | |
| 7. 編集の小窓 | |





世代別会員数



都道府県別会員数

《第46回日本放射線技術学会秋季学術大会へのお誘い！》

－ 震災から7年 復興と放射線技術学 －

大会長 千田浩一



10月4日から仙台市で開催される第46回秋季学術大会のメインテーマは、「震災から7年 復興と放射線技術学」です。前回の仙台大会（第38回秋季学術大会、梁川 功大会長、江口陽一実行委員長）は2010年10月に開催されましたが、その約半年後にあの東日本大震災が発生しました。大震災後、皆様方の力強いご支援によりまして着実に復旧しておりますが、その一方で十分な復興にはまだ道半ばという状況です。今回の秋季学術大会に是非ともご参加頂き、皆様方にはその様子を見て体感し共有していただきたいと思います。さらに大会テーマに沿った内容のシンポジウムや各種の企画も行われますので、当学会に出席するこ

とが次の災害に備えいろいろと考える機会にもなればと考えております。

東北大学総長でノーベル物理学賞候補者でもある大野英男先生に特別講演をお願い致しました。大野総長には大会初日に「スピントロニクスと産学連携」と題してご講演を頂きます。放射線医学領域はまさに「産学連携」が無ければ成立しないところでありますので、大野総長のご講演は非常に有意義なものになると確信しております。また伊達家18代目当主の伊達泰宗氏から、震災復興や伊達家にまつわる種々の興味深い内容についてご講演を頂きます。さらにその他にもいくつかの有用な特別講演が予定されております。

学際化推進のための関連学会・職種とコラボセッションも多数企画されております。既に学術協定が結ばれている日本循環器学会と合同シンポジウム（心血管インターベンションにおける従事者水晶体被ばくの現状と取り組み）が開催されます。加えて日本放射線看護学会と、当秋季学術大会期間中に学術協定調印式を行う予定であり、引き続きキックオフシンポジウムが企画されております。さらに実行委員会企画として関連職種とのシンポジウム（コラボ企画）もいくつか



大会長 千田 浩一 東北大学

実行委員長 坂本 博 東北大学病院 診療技術部放射線部門

主催：公益財団法人 日本放射線技術学会
内務一般社団法人 日本ラジオロジー協会

【実行委員会事務局】
〒980-0874 仙台市青葉区星耀町1-1
東北大学国際診療技術部放射線部門
TEL 022-717-7418

<http://www.jsrt.or.jp/meeting/shaki46/>



予定されています。

一般研究発表には多くの演題申し込みがございました(約500題)。例年のように、一般研究発表(口述、ポスタ)、専門部会企画や教育委員会企画等々、多数のセッション等が行われます。

そして今回は学生発表セッションを10月5日(金)に行いますので、学会の将来を担う学生達に対する暖かいご助言や教育的なご指導も期待しております。

前回の仙台学会(第38回秋季学術大会)にて好評でした「おぼんですセミナー」を今回も開催します。夕暮時にグラスを片手にリラックスして、普段はなかなか聞くことのできない情報(本音)や、いろいろな勉強ができるものと思っております。また仙台沿岸津波被災地域を視察していただくスタディーツアーの企画も準備しております。

学会場は前回(第38回)の仙台大会と同じ仙台国際センターですが、地下鉄東西線が開通しアクセスが格段に向上しております。そして前回と比べ展示棟新設などによる拡充した施設・設備を有しております。

梁川 功さんや江口陽一さん、そして有馬宏寧さん加賀勇治さんらの「強力!」な諸先輩方からも、いろいろなアドバイスを受けながら、鋭意、大会開催準備に取り組んでおります。

10月は気候も良く、仙台や東北の「観光や収穫の秋」も満喫できます。第46回秋季学術大会に参加して頂くことそのものが、復興に繋がりますので、是非ご出席ください。坂本 博実行委員長をはじめ実行委員や関係者一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

《会員動向》

会員数(2018年7月末日現在):92名(内:名誉会員8名)

- ・入会者:ナシ(2018年4月1日以降)
- ・死亡退会者:厚東正之(京都府)2018年5月4日逝去
- ・自己退会者:金山敬典(徳島県)2018年6月27日付け

《JSRT 情報》

『第46回秋季学術大会』大会テーマ:震災から7年 復興と放射線技術学

大会長:千田浩一(東北大学)

会期:2018年10月4日(木)~6日(土)

会場:仙台国際センター

『第75回総会学術大会』大会テーマ:革新的な放射線医学を ―患者に寄り添って―

Innovative Radiology close to the Patients

大会長:石田隆行(大阪大学大学院)

会期:2019年4月11日(木)~14日(日)

会場:パシフィコ横浜会議センター他

《寄稿》

「古墳巡り回想録」 ―その1―

川越市 森 克彦



プロローグ【prologue】

古墳巡りを行うに際し、古墳及び埼玉県の県名に関する概要について述べてから古墳散策のコース及び川越市並びに隣接市の古墳を巡って回想したいと考えます。

『古墳の概要』

古墳の定義は、普遍的には古代の墳墓という意味で用いるようであるが、基本的には「墳」の文字には土を盛り上げる墓という意味があることから、「古」の文字が単に古い時代のものであるとしても中世や近世の土の墓を古墳とは呼びません。これらの墓は中世墳墓、近世墳墓と呼んでいます。古墳とは、日本の古代、ことに弥生

時代末の西暦3世紀後半に出現し、7世紀末ごろまでに築造された高塚の墳墓を古墳と呼ぶようです。

古墳は規模の大小は別として、土もしくは石を積んだ墳丘が有り、内部に遺骸の埋葬施設をもっているもので、質・量に関係なく副葬品が添えてあることが基本的な古墳というようです。この遺骸埋葬施設を、古墳の内部構造と呼び、外部施設として墳丘に段築を設けて、二段もしくは三段築成とした例もあります。大型墳丘の古墳には段築が多い傾向が認められますが、墳丘やその周囲を巡る堀の中堤・外堤上などには、円筒埴輪、器財・人物・動物などの形象埴輪が立て巡らされている古墳もあり、墳丘の傾斜面には葺石が敷かれ、墳丘の土の崩落を防ぐためと考えられています。

古墳の築造に際しては、大規模な土木工事技術と労働力などを司ることが出来る社会的地位の人物が推定されます。遺骸に添えた副葬品も古墳被葬者の財力・権力などを具体的に表現しているものと考えられます。古墳は死者に対する手厚い埋葬の方法で特定の人物のための墓であり、一般民衆の墓とは考えにくいようです。これは政治的権力者あるいは地域社会に君臨した支配者のための墓であり一種の歴史的・社会的な構造物と考えられています。古墳の出現は政治的権力者の登場と政治的社会への変遷を意味しているもので、前の弥生時代と区別して、古墳がつくられていた時代を「古墳時代」と呼んでいます。

古墳の種類

{円 墳}

もっとも普遍的に分布しているのは平面形が円い円墳です。7世紀末ごろに築造された奈良県高松塚古墳のような「終末期古墳」は、土まんじゅうのように墳頂部が丸みをもった、平坦な墳頂を形成する截頂円錐形の円墳です。全国には約25万基前後の古墳が分布しますが、その約95%が円墳と考えられます。円墳の多くは直径10メートルから20メートル前後、高さ2〜3メートル、墳丘の傾斜は20度から25度前後、周囲に幅数メートル、深さ1メートル前後の周堀を有するものが多いようです。

{帆立貝形古墳}

帆立貝形古墳は、円墳に低く短小な突出部がついた形態で、平面形が帆立貝に似ているところからこの名がついたようです。

{方 墳}

方墳は平面形が四角形かやや長方形の墳丘を有したものをいいます。代表的な奈良県橿原市榊山古墳は、一辺85メートル、高さ15メートルの日本最大の方墳です。

{上円下方墳}

方墳との関係から特異な形態として、上円下方墳があり、墳丘の下段が方形で上段に円墳がのった形をしています。類例は希なようです。京都市山科区天智・天皇陵古墳、東大阪市山畑2号墳、奈良県桜井市カラト古墳、埼玉県熊谷市宮塚古墳などが知られています。

{前方後円墳}

前方後円墳は日本独特の墳形といわれ、江戸時代に蒲生君平が『山陵志』のなかで「前方後円」の語を用い、以後この名がついています。円形の主丘と、その一方に方形の壇状部がついたものであり、前方後円墳は古墳時代の始まりとともに出現し、近畿地方では6世紀後半ごろまでには消滅し、東日本では7世紀中ごろまで築造されていました。前方後円墳は、西暦260〜280年ごろには近畿地方に出現し、東日本では650年ごろまで築造されたものと考えられています。

{前方後方墳}

前方後方墳は方形の主丘に長方形の前方部が付設されたもので、後方部が正方形のものほかに、長方形・台形を用いたものもあります。前方後方墳は前方後円墳に比して、その数がきわめて少なく、全国で約450基が発見されているにすぎないようです。前方後方墳は、3世紀代から5世紀代にかけて築造された例がもっとも多く、6世紀以降の後期古墳に属するものは比較的少数のようです。

{双方中円墳}

双方中円墳は前方後円墳の主軸上の反対側にも、前方部状の突出部が付設された特異な古墳で、香川県高松市石清尾山古墳群の猫塚古墳や奈良県天理市櫛山古墳があります。

{双方中方墳}

双方中方墳も、極めて少なく、前方後方墳の主軸上の反対側にも前方部状の壇状部がつけられたもので、三重県津市安濃町の明合古墳です。

{双円墳}

2基の円墳が連結した形のもので、前円後円墳ともいべきものです。双円墳はわが国独特のものではなく、朝鮮半島にも多く見られます。

{八角墳}

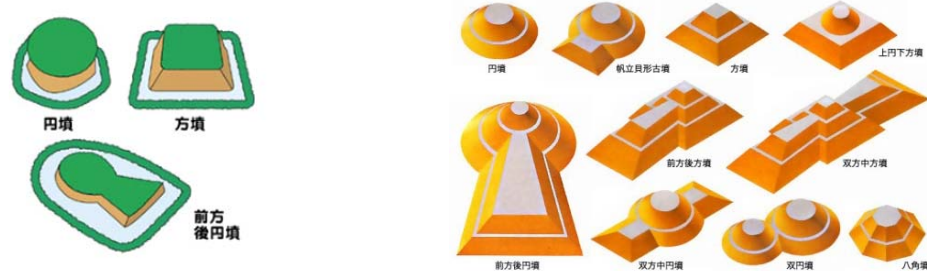
八角墳は、墳丘の平面形が八角形を呈したものをいいます。奈良県明日香村中尾山古墳、天武・持統天皇合葬陵古墳のほか、東京都多摩市稲荷塚古墳、群馬県吉岡町三津屋古墳、山梨県笛吹市一宮町経塚古墳などがあります。

{地下式横穴墓}

墳丘を有する形式が古墳の一般的な形態であります。例外的な古墳もありあす。一つは、地下式横穴墓あるいは地下式古墳とよばれているものです。台地上の平坦地に堅坑を掘り、その底面からさらに横に向かって掘り進めて墓室を設けたものです。

{横穴墓}

横穴あるいは横穴墓は、別名横穴古墳とよばれています。凝灰岩や砂岩のような比較的軟質の岩石でできている丘陵・台地の斜面に掘り込まれた墓も、古墳としては例外といえます。墳丘をまったく伴わず古墳の概念から外れ、内部構造は横穴式石室の構造に似て、羨道・玄室をもち前庭部が設けられている場合もあります。横穴墓は横穴式石室の築造時期と並行していますが、古墳時代後期から奈良時代まで利用されている場合も見られます。横穴墓は、6・7世紀を中心とした地域社会の共同墓地の性格を表現していると考えられています。



『埼玉県名の由来と県章』

・県名

「埼玉」という県名の由来は、どこから来たのか、調査してみると行田市の「埼玉古墳群」のある「県立さきたま古墳公園」に「埼玉県名の由来」という石碑がありますので、下記に掲載します。

【埼玉県名の由来:原文】

明治四年十一月十四日、現在の県域に「埼玉県」と「入間県」を設置すると太政官布告が出された。これが埼玉県誕生である。以後、幾度かの変遷を経て明治九年八月に現在の埼玉県の区域が定まった。

「埼玉」が県の名称とされたのは、当初の県の管轄区域の中で、最も広いのが、埼玉郡であったことによる。埼玉郡は、律令による国郡制度が発足した当初から設置された郡と見られ、当初は前玉郡（さきたま）という表示も行われ、正倉院文書神亀三年（七二六）の山背（やましる）国戸籍帳には「武蔵国前玉郡」の表記が見える。また、延喜式神名帳にも埼玉郡の項に「前玉神社二座」とある。

ここ行田市埼玉（さきたま）の地は、巨大古墳群の所在地であり、また「前玉神社」の鎮座する場所でもある。おそらく埼玉郡の中心地であったと考えられるので、ここに碑を建て、県名発祥の記念とする。

昭和六十二年四月 埼玉県

碑文の説明文の他に、万葉集には「さきたまの津」と記述され、風土記にも「武蔵国埼玉郡（さきたまごおり）」と書かれている。「さきたま」が「さいたま」となったという説と武蔵国多摩郡の先の方にあるから「さきたま（前多摩・先多摩）」、「さき（前）」「たま（湿地の意味）」が転じた、「さきたま（幸魂）」が転じた——などの説もありますが、碑に書いてある説明が納得できると考えます。

・県章（県のマーク）

まが玉 16 個を円形にならべたもの。まが玉は、古代人が装飾品などとして大切にしたもの。埼玉県名の由来である「幸魂（さきみたま）」の「魂」は、「玉」の意味でもあり、まが玉は、埼玉県にゆかりの深いものとなっている。また、まが玉を円形に配置したデザインは、「太陽」「発展」「情熱」「力強さ」を表している。県旗は県章を白地に赤く染め抜いたもので、昭和 39 年 9 月 1 日に制定された。



埼玉県庁ホームページより転載

『古墳散策の概要』

筆者が 2010 年 3 月に退職してから、ウォーキングを取り入れて健康管理を行って 8 年が経過したので、健康管理を総合的に行うべく Fitbit Inc. (smart watch) 2018 年 1 月 1 日より導入して現在に至っているが、連携アプリとして「Linkx aruku (リンククロス アルク)」(損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社：2017 年 4 月にリリース) が提供されているのでウォーキングおよび散策時に運用しています。毎日の生活における活動量をエクササイズ (exercise) と呼びます。なお、エクササイズについては、エピローグ【epilogue】にて解説したいと考えます。

「Linkx aruku (リンククロス アルク)」の概要は、散歩中の発見を写真やコメントで共有し、全国 500 コース以上のおすすめ散歩コースから選んで歩くことができます。散歩コースは、「NAVITIME」などのナビゲーションサービス、端末を持ち歩くだけで、歩数や消費カロリー、距離を記録できます。歩行軌跡や撮った写真なども記録され、その日どこにいて何をしていたかを振り返ることができます。

Fitbit Inc. (NYSE:FIT) 製のウェアラブル端末と連携すると、コースを歩いたときの心拍数など、より詳細なデータを記録できます。継続的な歩行を促すことで、健康促進を図るアプリです。

【「Linkx aruku (リンククロス アルク)」アプリの概要】

■散歩体験をアプリ上で共有できる。

・「あるメモ (あるくメモリー)」という機能で、散歩中の発見を写真やコメントで共有できます。「かっこいい」や「おもしろい」などのスタンプを選ぶことができ、そのときの“気持ち”も一緒に残すことができます。

・共有された「あるメモ」は、アプリの地図上で見ることができます。

・駅周辺、施設・スポット、“気持ち”から、好みの「あるメモ」を探すことができます。

・気になった「あるメモ」は登録して、いつでもまとめて確認できます。

■全国 500 コース以上の散歩コースが準備されています。

・都道府県毎に検索可能で、豊富なジャンルの中からお好みのコースを選ぶことができます。

・周辺のトイレ情報など、散歩の際に便利なスポットも検索できます。

■歩いた内容を自動で記録することができます。

・歩いた記録 (歩数、消費カロリー、歩いた距離、歩行軌跡、行った場所、撮った写真) が残るため、その日どこにいて何をしていたかを振り返ることができます。

・記録した情報は、リストやタイムライン、地図やグラフで振り返ることができます。

■Fitbit 連携でさらに詳細データを記録可能にしています。

・Fitbit と連携することで、歩数の同期や、睡眠時間、アクティブな時間の表示、コース利用時の心拍数を測定できます。(心拍数及び血圧等の測定は、使用する端末によります。)

【川越古墳巡り】2018 年 6 月 28 日



先ず、スマホのLinkx aruku アプリにて、コース・関東→埼玉県 24 コース→川越で古墳巡りを選ぶと現在地からの地図（左図）が表示されるので案内に従って古墳巡りコースを下記の順に訪ねてみました。

コースは、自宅から川越駅 2 階改札口から西口に出て JR 川越線に沿って進み、最初の十字路を左折して 15 分程進むとコース地図②に到着、此处が「浅間神社古墳」です。愛宕神社古墳を父塚、浅間神社古墳は、母塚と呼ばれ、高さ 5m の大型円墳です。

1. 川越駅（起点：S）
2. 浅間神社古墳
3. 愛宕神社古墳
4. 氷川神社古墳
5. 三変稲荷神社古墳
6. 小仙波貝塚跡
7. 慈眼堂古墳
8. 日枝神社古墳
9. 川越市立博物館（終点：G）

「浅間神社古墳」＊川越市指定 史跡

「浅間神社古墳」は、案内板によれば、円墳で、その規模は、高さ約五メートル、周囲四十二メートルである。現在この古墳の墳頂には、浅間神社が祀られており、このためかなり削り取られて墳頂部は平坦になっている。古墳のすその部分に低いところが見られる事から周溝が巡っていたと考えられています。

愛宕神社古墳と共に仙波古墳群の中では規模も大きく、群集墳が発生した初期の頃に築造されたものであり、六世紀の中頃のものと考えられています。仙波地域一帯が農業を専業とする人々によって村落が形づくられ、その指導者の墓として作られたものであり、川越市内では、的場古墳群、南大塚古墳群、下小坂古墳群に次いで残っている仙波古墳群のひとつです。 昭和六十三年三月 川越市教育委員会



浅間神社大鳥居



浅間神社古墳の墳頂への階段



浅間神社社殿

溶岩を積み上げた守り神（お猿）

仙波浅間神社の社殿が乗っかっている小山を「浅間神社古墳」といいますが、全部で6基ある小仙波古墳群の1つです。別名「母塚」と呼ばれています。

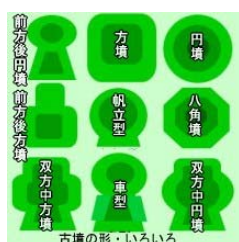
「愛宕神社古墳」＊川越市指定 史跡

愛宕神社古墳は、案内板によれば、
仙波大地の東南端上に築かれたもので、かつてこの付近一帯を六つ塚稲荷という名称から考えても多くの古墳群が存在していたことがうかがえる。高さ六メートル、東西三十メートル、南北五十三メートルを有し、基壇のある二段築成の円墳で、幅約六メートルの周溝が東南の斜面を除いて巡っている。六世紀中葉期のものと思われる。現在は愛宕神社が祀られている。

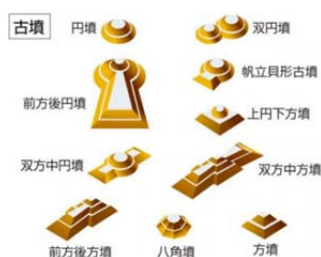
昭和六十三年三月 川越市教育委員会



愛宕神社大鳥居



愛宕神社への階段





愛宕神社・社殿



愛宕神社社殿の下からの展望

「氷川神社古墳」

仙波氷川神社境内にある円墳「氷川神社古墳」は、案内板などはありませんので、古墳に興味の無い方は見逃してしまうかもしれません。ただし、古墳の前には、立て札で「この塚で遊ぶのは、危ないから止めましょう 氷川神社」と書かれていますので古墳と判別できると考えます。仙波氷川神社古墳は、直径 15m 程の小円墳で、割と綺麗な弧を保っています。墳頂には石燈籠が建てられています。なお、川越祭りの例大祭で有名な氷川神社は、喜多院の北 1km に鎮座する神社で、上記の古墳が現存する氷川神社は仙波氷川神社と称され、喜多院から南に 1km 余りの国道 16 号線沿いにあります。



仙波氷川神社大鳥居（額：氷川大明神）



墳頂の石灯籠





古墳（円墳）注意書き



仙波氷川神社・国道 16 号からの階段

「三変稲荷神社古墳」＊川越市指定 史跡

喜多院から徒歩 8 分程、住宅街の真ん中に三変稲荷神社があります。この三変稲荷神社は、喜多院が所有する神社で、6 本連なった赤い鳥居が特徴的です。

稲荷神社がある盛り上がり部分がその古墳です。四世紀後半（古墳時代前期）で、年月のせいか、稲荷神社の建造の為か、四角いはずの方墳が円墳の様に見えます。この三変稲荷神社古墳は、喜多院にある慈眼堂古墳や、日枝神社脇にある日枝神社古墳と共に仙波古墳群の一つになっています。

出土品も様々あり、特に底部穿孔壺型土器という埴輪の前身である土器が大量に配列してあったそうです。実際の出土品は川越市立博物館で見ることができます。



三変土田稲荷



6 本の赤い鳥居



方墳を下から見た展望



墳頂部の稲荷社

「小仙波貝塚跡」＊川越市指定 史跡

小仙波貝塚跡は約6千年前の貝塚跡で、古東京湾にのぞむ最奥部の貝塚跡です。貝塚からはシジミやカキなどの貝が出土しました、さらに貝層の下からは土器や石器を出土する竪穴住居も発掘されています。海水が流れ込むこの地域は、海の貝も採れましたが、主に淡水の貝が採取されていたようです。小仙波貝塚の碑が置かれている場所は元々泉が湧き出ている場所で、泉を中心に集落が営まれていたと考えられます。現在、遺跡部分のほとんどが宅地となり、遺構は小仙波貝塚の碑と広場があるのみとなっています。



小仙波貝塚跡の碑



貝塚に関する案内板

案内板は、年月も経ているので内容を判別するのもやや難しいので、退職した2010年の写真から説明文を下記に紹介しますのでご一読ください。

「小仙波貝塚跡（市指定・史跡）小仙波三・四丁目

小仙波貝塚は、荒川右岸の台地端上に形成された古東京湾にのぞむ最も奥の貝塚跡である。縄文時代前期の頃は北半球が温暖となり氷河がとけて海水面が上昇した時期で、川越をはじめ上福岡市（現在は、ふじみ野市）・富士見市にも貝塚が確認されている。小仙波貝塚は、昭和の初期に道路建設により破壊され多くは存在しないが、現存する一部からヤマトシジミ・カキ貝が出土している。現在の指定地は、元清水が湧き出ている場所で、この泉を中心として縄文時代前期の集落が営まれていた。縄文時代中期以降になると海は退きはじめ現在の東京湾に近づいていった。

仙波台地は、約六千年前の貝塚の残された時代から引き続いて弥生・古墳・奈良・平安の各時代の集落が形成された地域である。平成三年三月 川越市教育委員会」

「川越古墳巡り」コース⑦⑧及びコース以外の古墳巡りは、次号以降に掲載予定です。

《原稿・作品募集》

【情報誌第53号】(1月15日発行予定)

■■■■■■「私がハマっているもの」■■■■■■

今回の特集テーマを「私がハマっているもの」とさせていただきます。

記

原稿内容：副題（自由にお付け下さい）

原稿文字数：800字～1200字（400字原稿用紙3枚以内）

写真：ご自身の写真（半身）文字数に含みません。

内容に関する写真及び図表は、1枚につき原稿文字数から100文字を減じて下さい。

写真・図表は、デジタルデータが希望ですが、(JPG、PDF、EXL等)アナログデータも可。

原稿形式：ワード、一太郎、TEX等（ワープロ、手書きも可）

提出期限：2018年12月15日必着でお願い致します。

また、第47号より募集している「私のふらり旅」のテーマも受け付けております。

送付先：森 克彦 〒350-0064 川越市末広町1-11-22 宛

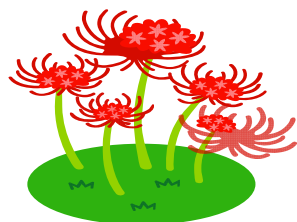
E-mail: mo-katsu@jt4.so-net.ne.jp mokamokawh@gmail.com

《編集の小窓》

FAR会情報誌52号をお届けします。6月に梅雨が空けたら今度は猛暑の毎日です。太平洋高気圧とチベット高気圧の布団が2枚重ねの日々、体温以上の気温、7月にはいると北海道にあった梅雨前線の南下により西日本に大雨特別警報が発表され甚大な水害被害が起きました。お亡くなりになった方のご冥福を心からお祈り申し上げます。また被害に遭われた方へ心からお見舞い申し上げます。再度梅雨前線が北上し東日本から西日本にかけて広い範囲で記録的な雨をもたらしました。遠く南では台風が続けて発生し、8月に入ると北海道大雪山で初雪を観測しました。これも異例な事とされています。そして台風の発生も現時点で20号を数えています。異常気象と言われてから久しいですが異常なことが毎年繰り返されています。そして被害も甚大になっています。前にもどこかに書きましたが私の子供の頃は氷河期が来るとよく言われていて、氷河期が来たらどうしようと悩んでいた頃を思い出します。ところが真逆で地球は温暖化へ向かっていると言われその対策が検討されています。どこかの大統領は、地球温暖化は嘘っぱちだと言ってパリ協定から離脱をちらつかせています。困ったものですね。地球温暖化阻止のために個人で出来ることは何かを休み休み考えています。

今年行われる秋の懇親旅行「日本三景松島と震災復興視察の旅」でお目にかかれる事を楽しみにしています。

石井 勉、記



FAR 情報誌 No.52 (非売品)

発行日 2018年9月15日

発行者 川上壽昭

編集委員会 森 克彦 (委員長)

石井 勉 江島光弘

橋本廣信

山田和美 (顧問)

森 連絡先 Tel&Fax

049-225-2619

Email: mokamokawh@gmail.com